

滋賀県立芸術劇場びわ湖ホールの経済的効果の試算について

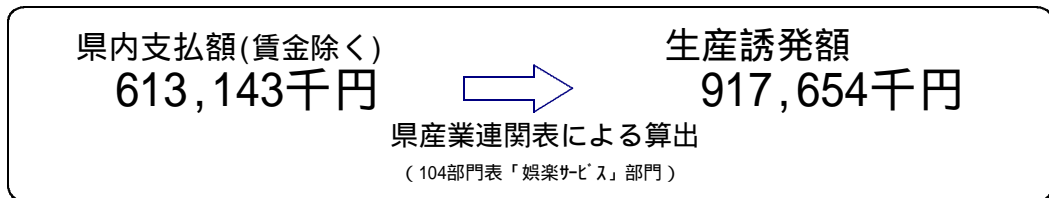
びわ湖ホールが昨年9月に開館10周年を迎えたのを機に、経済的効果について検討した。経済的効果の把握については様々な方法があると考えられるが、今回は産業連関表による滋賀県内における生産誘発額によることとした。

生産誘発額について

びわ湖ホール運営による生産誘発額は22.9億円/年

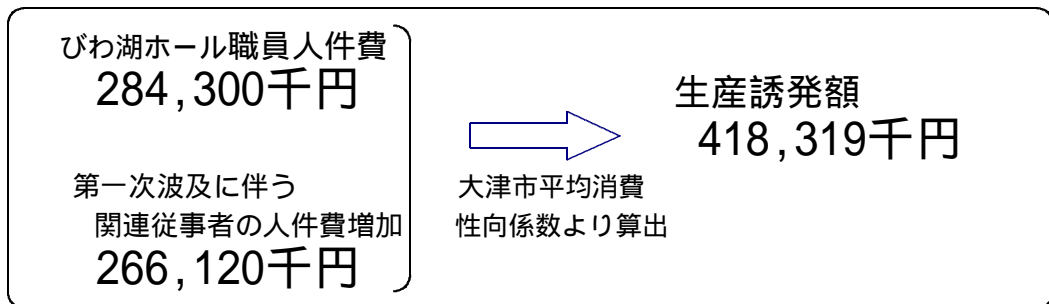
生産過程による波及効果（第一次波及効果）

県内に支出されたホール経費を基に波及効果を求めた。（平成19年度数値）



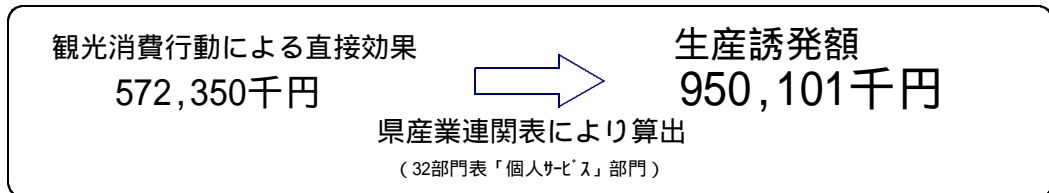
賃金による波及効果（第二次波及効果）

上記の生産過程で発生する人件費による波及効果を求めた。（平成19年度数値）



来館者の消費行動による波及効果

県外からのびわ湖ホールへの来館者81,748人(総来館者190,112人× 県外比率43%)が、県観光動態調査結果のとおり観光消費行動を行った場合の波及効果を求めた。（平成19年度数値）



県内におけるびわ湖ホールの経済波及効果(~ の計) [単位：千円]

直接効果	生産誘発額	生産誘発係数
1,469,793	2,286,074	1.56

【参考】パブリシティ効果 2.2億円

平成20年度にびわ湖ホールに関して取り上げられた新聞・テレビ・ラジオでの件数をもとに試算したパブリシティ効果は2.2億円となった。

びわ湖ホールの平成20年度の新聞掲載件数は429件(のべ記事面積60,554平方センチメートル)、テレビ・ラジオのオンエア件数は27件(のべ放送時間107分)だった。

パブリシティ効果とは

新聞・テレビ・ラジオなどマスコミにて取り上げられた報道量(記事面積、放送時間)を仮に広告として掲載・放送依頼した場合にかかる広告料に換算した額のこと